

2005  
02.01

Vol.65



社団法人日本建築家協会  
The Japan Institute of Architects

# NAGANO

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>

## -KEN CLUB

JIA 長野県クラブ

### 『個声』に感動

副会長 久保 隆夫

今年の正月は思いのままゆっくり過ごそうと、今まで読み残した本を引っ張り出し読み始めた途端、年末から外は雪、々、々。辺りからは雪かきの気配。とても読書する雰囲気ではなく、気が付けば外で雪かき作業員だった。ふと、“今年の蓑虫は、例年になく高いところに巣を架けている。今冬は大雪かも・・・”という記事を思い出し、妙に自然界の予知能力に納得したものです。結局、読み残した本はそのまま・・・。今年もまたかな？と不安な心境で、私も新しい年を迎えることとなりました。大雪との格闘に疲れ果て、夜中までだらだら音楽鑑賞していると、もともと特別な興味がなかった『ア・カペラ』が聞こえてきた。(ア・カペラ：イタリア語／楽器の演奏なしで歌う合唱法で、宗教音楽から生まれる。ゴスペルなどもその類とされ、今は様々なジャンルに及び、ファンも多い。)妙に魂に響くではないか！私の気持ちを奮わせる旋律は聞くほどに心地良く、人間味に溢れる情感が伝わってくる。

それは、大勢の人達の音質を整え、和により美しく奏でる今まで聴いたコーラスとは異なり、メンバー一人ひとりの個性的な肉声を鮮明に表現することがこの伝統的合唱の特徴であるからです。時には繊細に、荒々しく、リズミカルにひとつの旋律を創り出し、時には耳障りな不協和音に感じたりもするが、それが曲の中で重要な言葉を創っていたりする。久しぶりに聴いた『ア・カペラ』にあらためて感動、思わずJIAとイメージを重ねてしまいました。ところで、日頃ご無沙汰の秀作づくりに多忙な会員の皆さんもたまにはリーダー高橋会長による社会派『ア・カペラ』に参画しませんか。長野県クラブを舞台として、皆さんの“個・声”を鮮明に出すことで世の中は我々の目指す建築家像に必ず感動するに違いありません。



ベネツィアの街角

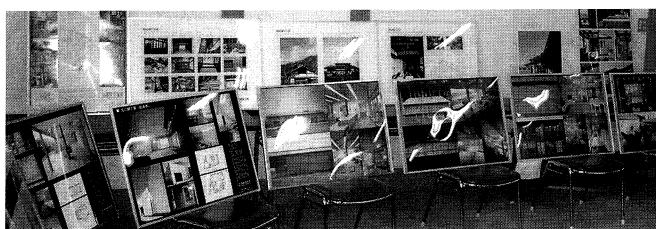
# 委員会報告

2004年12月8日(土)、松本平を望む「薬師平茜宿」にて勉強会・技術交流会・忘年会が行われました。

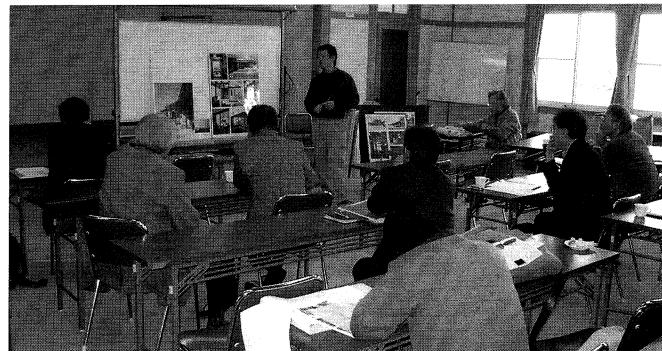
## あすなろ展・勉強会に参加して

山田 健一郎

  
「あすなろ建築展・勉強会」に参加させていただいた。40人の真剣な眼差しを受けての発表など卒業制作の説明以来ではないだろうか。先に発表した人々は、作品のテーマ・コンセプト・工夫した点などを明快に説明していく、やがて私の順番。さて、何から話してよいものかと思いながら取りとめの無い説明をしているうちに話すことがなくなった。仕事での施主や工務店との話は対話形式なので話が膨らみ、お互い創造性が増しますが、それ

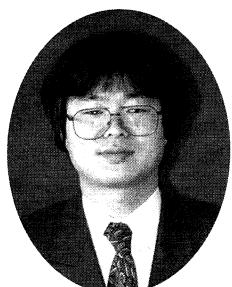


に比べて、「発表」はなんとつらいことか。「建築は実物を体験してナンボ」などどうそぶいても始まらぬ。後の忘年会の席である先輩に「下手な説明で・」と言ったら「作品が下手だから下手な説明しか出来ぬ」と一括。ごもっともです。他の方の作品発表はもちろん勉強になりました。それ以上に、自分の作品・考えをきちんと発表する訓練、何よりも発表に耐える物を創り続けること、とても勉強になりました。

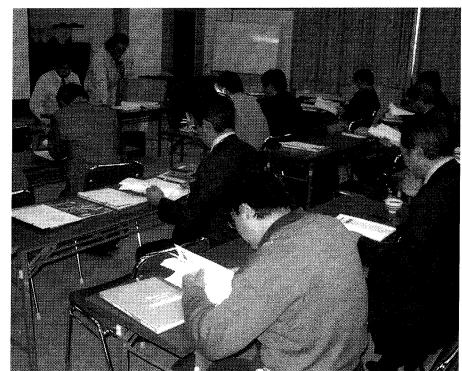


## 技術交流会に参加して

伊藤 公績

  
12月18日の技術交流会に、久しぶりに参加させていただきました。当日はOHPの準備がうまくできなくて、発表の順番が狂ったりして説明する方も苦労されたと思います。はじめに炭平コーポレーションさんの地盤改良・杭についての説明がありました。いただいた資料の表紙は、何についての説明なのか判らない書き方をされており、ちょっとまごつきました。内容がどちらかというと構造に関することなので、もう少しあみ碎いた説明がいただけるとありがたいと思いましたが、六価クロムの問題、狭い敷地での杭の打設等、参考になる話を聞くことができま

した。次にECOさんの弾性舗装材についての説明を受けました。いろいろな工夫があり、なかなか面白い材料で自社の設計物件にも採用しています。採用は実績を検討して、施主と現地見学をした上で決定しました。環境循環型社会に対応する商品ですが、新商品ですので耐久性について検証されることが大切と思いました。

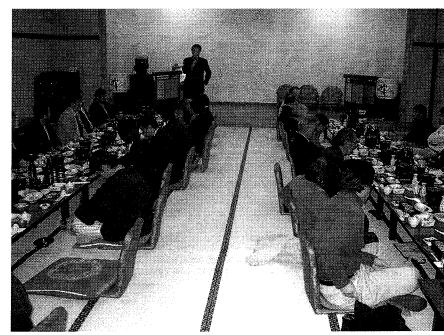


## 忘年会に参加して

林辺 松治

  
12月18日、崖の湯「薬師平茜宿」にて忘年会が開催された。あすなろ建築展勉強会・技術交流会に、引き続き行わられたもので、40余名の参加を得た。中越地震、資格制度、入札問題、CPD等、高橋会長より今年の総括と来年への展望の話があり、続いて新会員紹介、そして開宴となった。やがて、酒と共に懇親は深まり、議論が物足りなかった皆様もそれなりに話を尽くした頃、中締めのはこびとなった。締めるは贊助会長。ここまでは、よくある忘年会。だがこれは、締めと言うより、まるでテーマ不明のシンポジウムの始まりであった。氏は基調講演をした後、自らコー

ディネーターとなって、前会長を始め、各執行役員、賛助会員諸氏を次々に指名。30分を優に越す講演会となったのである。これで、忘れたはずの年を思い出してしまった人が続出、彼ら等が眠りに就くまで、一体、あと何杯の杯と囲炉裏端談義が必要だったのか…想像の如し。それにしても、露天風呂から観る松本平の夜景と、降り注ぐ満天の星、年の見納めには文句なしの絶景でした。

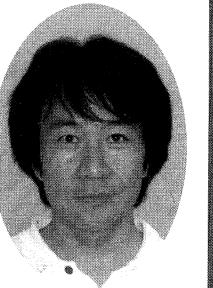


# 新入会員の紹介

バイオ一級建築士事務所 青柳 悟

このたび、入会させていただきました青柳と申します。4年ほど前に勤務していた工務店を退職し、安曇野の地（豊科町）にちいさな事務所を開設しました。以来、なんとか遊ばずに、食べる程度の仕事を細々と続けさせていただいております。社会人としてのスタートは、家業の婦人アパレルの世界に身を投じておったのですが、縁あってこの世界に入り込み（迷い込み？）今日に至ります。あんま

り肩に力入れずに、できるだけ自然体でいこうとしてますが、現実はなかなか思い通りにさせてくれませんね。お客様にいっそう喜んでいただける建築を目指し、これからも頑張ってまいります。諸先輩方のご指導、ご鞭撻よろしくお願ひいたします。



## 新潟県中越地震被害認定調査(3次判定)に参加して

丸山 幸弘

今回の新潟県中越地震の支援活動に多くのメンバーが参加され、改めてフレキシブルな皆様に感心しました。一度のみならず二度三度と積極的に参加された方もいました。こういった災害が起きる度に、迅速で適正な対応を起こす必要があるとつくづく痛感します。特に現地の受け入れ体制の早期確立と行政の枠を排除した体制づくり、そして支援体制は特に何でもかんでも参加ではなく、自分が持つ専門性を生かした支援活動への参加などが効率の良い災害復旧につながると思います。それには我々住む地域において常日頃から災害を想定し、早期対応がとれる状況があるのか把握しておくことも大切です。また、自らの専門性（職能など）を鍛錬し高めて

おく事が必要です。近頃、建築家は社会から存在意義を問われています。ご存知のとおり、関東甲信越支部では低額入札問題で大きく揺れています。社会的責任ある立場の建築家として職能を高めるべきです。また、災害時には多くの方の支援が必要になりますので、JIAとして、どのように支援できるのかを考えおく必要があります。「社会に対して我々は何ができるのか？」三島町被災住宅調査の帰り車中でふと、こんな事を考えました。

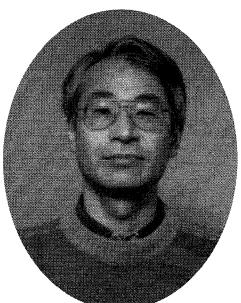


## 新潟県中越地震ボランティアに参加して

清水 国寿

建築士会の被災地住宅相談キャラバン隊（小千谷市、11/15）とJIAの被災住宅第三次判定（三島町、12/4）に参加してきました。道路が波打ち、電柱が傾き、マンホールが地面から飛び出し、所々に倒壊した住宅のある光景を目の当たりに見るのは初めてで衝撃を受けました。同じ地域内でもそういう被害に差が見られたのは、たぶん地盤の良し悪しが関係しているのでしょうか。各所で道路の路肩が流され片側通行となり渋滞していました。やはり、谷を埋めた盛土部分の道路の被害が大きかったと思います。住宅相談では甚大な被害のものはすでに対応されていましたが、ちょっとした建物の傷にずいぶん神経質になり怯えている場合も見られ、専門的な立場からのアドバイスはやはり必要です。また、住民の中には応急危険度判定と住宅相談、そして罹災証明や災害保険の認定などとの関係に混乱されている場合もあり、そういう手続

き面でも的確なアドバイスができるよう準備が大切と感じました。短期間で限られた地区しか見ていないので、客観的なことは言えないのですが、まったくの個人的な感想として言うならば、重い建物よりも軽いもの。高い建物よりも低いもの。そしてどんな構法であれ無理せずバランスよく計画し、正しく施工した物の方が、被害が少なかったように思います。1階を駐車場とするため、無理をして間口を広げた木造や、見た目で構造的なバランスの悪そうな建物はやはり被害が大きかったように思います。考えてみればまったく当たり前の事、まさに自然の摂理です。これらの貴重な経験をこれからの設計活動に活かして行きたいと思います。



## 「第13回文化講演会」開催

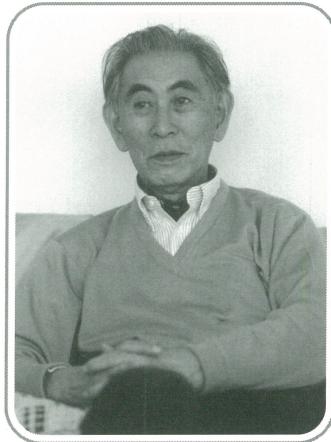
JIA長野県クラブは、今年も建築界でご活躍の先生をお招きして「第13回文化講演会」を3月12日(土)開催します。本年は第一工房代表・現役最高齢の建築家「高橋龍一」先生による信州では初の講演です。先生は2004年第17回村野藤吾賞を群馬県立館林美術館で受賞されるなど、輝かしい受賞歴をお持ちです。が、今尚現役第一線でご活躍されております。この機会に私達も大先輩から『大きなエネルギー』を頂きガンバリましょう。最後に先生の語録から一文。ーすべては手から始まる。ー 乞うご期待!!

建築家・高橋 龍一氏 講演

事業委員長 萩原 白

# 「建築のクロスワード・対極にあるもの」

天から降ってくるもの 地から沸きでるもの



私たちの職能の対象としての建築というものからこの世界を見る。これが私たちのグローバルな視座というものではないのか。地域の文化とは?環境というものは?無数ともいえる対極の視座。ミクロからマクロまで、建築を中心としてその対極にあるものを考えるとき始めてわれわれの視界は開けてゆく。

高橋 龍一

#### ■プロフィール

第一工房代表、大阪芸術大学名誉教授／1924年生まれ  
1949年 東京大学第二工学部建築学科卒業、同年通信省營繕部設計課勤務  
1956年 郵政省建築部設計課退職、武蔵工業大学建築学科助教授  
1960年 第一工房設立  
1967年 大阪芸術大学建築学科主任教授  
1995年 大阪芸術大学教授定年退職  
今日まで東京大学、東京工業大学、東北大学、九州芸術工科大学、東海大学、東京電機大学の非常勤講師を歴任。  
日本建築学会会員、日本建築家協会名譽会員、地中海学会会員

#### ■主な作品

1970年 佐賀県立博物館(日本建築学会作品賞) 1986年 実践女子大学校舎・体育館(建築業協会賞)  
1979年 大阪芸術大学建築群(芸術選撰文部大臣賞) 1992年 東京都立大学新キャンパス(建築業協会賞)  
1982年 大阪芸術大学塚本英世記念館・  
芸術情報センター(日本芸術院賞) 1997年 全労済情報センター(建築業協会賞)  
2004年 群馬県立館林美術館(第17回村野藤吾賞)

◆日時:平成17年3月12日(土)・講演会／15:00～17:00(入場無料)・懇親会／17:00～19:00(会費4,000円)

◆場所:ホテル国際21(1階 藤の間) 長野市県町576 TEL.026-234-1111

◆主催:(社)日本建築家協会JIA長野県クラブ

◆後援:(社)日本建築家協会関東甲信越支部／(社)長野県建築士会／(社)長野県建築士事務所協会／新建新聞社

## 「愛と情熱の家づくり」

制作部会報告 その2

### 春、発刊予定

会員委員長 片倉 隆幸

皆様方のご協力にて大勢の方のご参加をいただき、賛助会の皆様方の心からのご支援をいただきましたこと、またオフィスエムの皆様には重ねて御礼申し上げます。昨年暮れから各自のページの校正が始まっております。ラフ原稿もある程度上がってきたという状況です。特集記事は1)建築家と家を建てるということ 2)本音で話そう 3)県産材で家を建てる を準備しております。広告も賛助会の皆様のご協力にて前回並に集まっています。市民の皆様の暮らし向きの向上に役立つ本になりますよう制作部会にて内容を詰めていきたいと思います。期待してください。



制作中の原稿

## 会員・賛助会員情報(平成17年1月現在)

#### 1)新会員紹介

勝山 敏雄 2004年10月承認 かつやま設計工房(長野市)  
青柳 悟 2004年12月承認 バイオ一級建築士事務所(豊科町)

#### 2)事業所統合変更

元旦ビューティー工業株式会社 山梨県北杜市高根町下黒沢2077-1  
TEL.0551-47-4321 FAX.0551-47-4329  
賛助会担当者:甲信営業所長 坂本 浩氏

#### 3)新賛助会員

株式会社ランバーテック 松本市笛賀7189-2  
TEL.0263-86-3486 FAX.0263-86-3775  
賛助会担当者:松本営業所次長 丸山 淳治様

## 長野県学生卒業設計コンクール2005

■開催日:2005年3月13日(日)

■時間:13:00～16:00 ■場所:ホテル長野国際21

※公開審査で開催いたします。

審査委員長は宮本忠長建築設計事務所代表の宮本忠長氏の他に会員6～7名の審査委員で行います。本年も参加校7校参加作品30点以上・図面160枚以上・模型15点以上の応募がみこまれ、第1次審査、2次審査(参加者プレゼン審査)最終審査を一日がかりで開催いたします。優秀作品1点は全国大会に推薦されます。公開審査ですので、どなたでも見学出来ます。未来の若き建築家を目指す登竜門の審査会に大勢の皆様ご参加下さい。

編集  
後記

2004年は集中豪雨、台風、新潟地震、最後にスマトラ沖地震の津波などの災害の年としか憶えないだろう。  
各地で復旧が始まると今年は良い年でありますように・・・

広報委員 菊池弘之

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人／林 隆 発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 作成／アッカグラフィックス/新建新聞社  
発行人／高橋重徳 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>